

令和4年度 第六中学校 教育課程全体構想（グランドデザイン）

●＝育成する資質・能力の重点

令和4年4月1日（金）

青梅市教育目標	これからの新しい時代、いわゆる「グローバル社会」に向けて、人と社会、自然環境などと強調しながら、たくましく生きていくための資質・能力を育成する。		
学校教育目標	優しい人になろう	正しい人になろう	たくましい人になろう
目指す生徒像	心身ともに健康で、自分の考えや気持ちをはっきり表現できる明朗な生徒、やさしく親切で思いやりの心をもつ生徒	広い視野と国際感覚をもち、互いの人格を大切にすることを基本に、善悪の判断と責任ある行動がとれる生徒	目標に向かって強い意志とたゆまぬ努力によって、主体的に心身ともに鍛え成長する生徒
○各教科等を越えた学習の基盤となる育みたい資質・能力 (育成する資質・能力)	人間関係形成力 <small>(協働したり、社会参画したりしてよりよい人間関係をつくる力)</small>	課題解決力 <small>(課題を設定し、解決する力)</small>	実践力 <small>(体験・学びを社会に生かす実践力)</small>
中核となる各教科等	道徳科 基本的生活習慣の育成・人権尊重教育・生活指導・保健安全指導等の教育活動	主に各教科を要とする教育活動 総合的な学習の時間	学校行事など、主に特別活動、(地域活動)
目指す学校像 (「学校経営方針」から引用)	生徒の良さや能力を認め、自他の良い点を最大限に育てる学校	生徒の基礎学力の定着を重視し、自ら学ぶ生徒を育てる学校	生徒が委員会活動・部活動・行事・地域活動の体験活動を通してスポーツや文化に親しみ、学びを協働活動に生かせる力を育む学校
各学年の目標	第1学年	中学生としての自覚をもち、基本的生活習慣を身に付けることができる生徒の育成	
	第2学年	自ら考え、判断し、主体的に行動できる生徒の育成	
	第3学年	自立を重んじ、向上心をもって、責任ある行動ができる生徒の育成	
各教科 総合的な 学習の時 間	本校の目標	新学習指導要領「各教科の目標・総合的な学習の時間の目標」と同じ。	
	○育成する資質・能力 <small>学習の基盤となる育みたい資質・能力</small>	1 知識及び技能 2 思考力、判断力、表現力 3 学びに向かう力、人間性等 課題解決力	
	○目指す児童生徒像	広い視野と国際感覚をもち、互いの人格を大切にすることを基本に、善悪の判断と責任ある行動がとれる生徒	
道徳科	本校の目標 <small>学習の基盤となる育みたい資質・能力</small>	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 人間関係形成力	
	重点内容 項目	アンケートをも とに設定	「A (1) 自主 自立 自由と責任」、「B (6) 思いやり 感謝」、「A (3) 向上心 個性の伸長」
	○目指す児童生徒像	心身ともに健康で、自分の考えや気持ちをはっきり表現できる明朗な生徒、やさしく親切で思いやりの心をもつ生徒	
特別活動	○本校の目標	学びや体験を社会に生かすことのできる参画する力・協働する力を育成する。	
	○育成する資質・能力 <small>学習の基盤となる育みたい資質・能力</small>	1 知識及び技能 2 思考力、判断力、表現力 3 学びに向かう力、人間性等 実践力	
	○目指す児童生徒像	目標に向かって強い意志とたゆまぬ努力によって、主体的に心身ともに鍛え成長する生徒	

令和4年度 第六中学校 教育課程全体構想（グランドデザイン）

□新学習指導要領総則、各教科・道徳科・総合的な学習の時間・特別活動解説と本校の教育課程との照合

令和4年4月1日（金）

		目 標	指導の観点と評価規準	「道徳・総合・特活」の特質の比較			
各教科等	各教科	各教科の見方・考え方を働かせて、各教科の資質・能力を身に付ける。	指導の観点(三つの柱) (1) 知識及び技能 (2) 思考力、判断力、表現力 (3) 学びに向かう力、人間性等 評価規準 (1) 知識・技能 (従来の「理解」も含む) (2) 思考・判断・表現 (3) 主体的に学習に取り組む態度 [新学習指導要領総則解説 P91]	共通点	相違点 「解説」から引用 (はぐくむ力の重点の違い)		
	総合的な学習の時間	探究的な見方・考え方を働かせ、～よりよく課題を解決し、～自己の生き方を考えていくための資質・能力を～育成する～		三つの柱に基づく指導の観点と評価規準 知識及び技能を関連付けて活用する 課題解決に向けての協働・体験を進める 自分の生き方、社会について考えを深める	すべての言語活動があること	「探究」(探究的な過程)力 物事の本質を探って見極める。さらに新たな問いが生まれるので、問い続けていき、課題を再設定する。また、各教科等で習得した知識及び技能を課題解決に生かして、一般化し、汎用的に活用できる概念をつくる(知識の概念化)。※	総合的な学習の時間
	特別活動 { 生徒会活動 学級活動 部活動 学校行事 }	集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせて、～自主的、実践的に取り組み、～次の資質・能力を育成する～ (1) ～行動の仕方を身に付けるようにする。 (2) ～課題を見出し、解決するために～、合意形成～、意思決定～できるようにする。 (3) ～人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。		「実践」(社会参画・自己実現・人間関係形成)力 集団の場などにおいて実生活における、現実の問題そのものを改善する。たとえば「よりよい人間関係」について話し合い、集団としての解決策を合意形成したり、自分が行うことを意思決定したりする。また、話し合っただけを「実践」したり、学んだことを現実の課題解決に生かしたりする。課題の設定から振り返りまで一連の活動を「実践」と捉える。		特別活動	
特別の教科 道徳	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、～人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	[指導の観点] 道徳的価値の理解 [評価規準] 指導事項を通して生き方について考えを深めている	(各教科・総合・特活道徳 すべての言語活動があること)	「理解」(考える・議論する)力 たとえば「よりよい人間関係」について話し合うことは、なぜ人間関係が大事なのか、大事だとわかっていてもできないのはなぜか、問いながら道徳的価値の理解や生き方について考えを深める(道徳的価値の理解)。		道徳科	
学習の基盤となる育みたい資質・能力		課題解決力、実践力、人間関係形成力※、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)など ※□は本校で育成を目指す資質・能力					
現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力		持続可能な社会をつくる力、主権者として求められる力、地域創生力、他					

※総合的な学習の時間の学習活動が特別活動の目標・内容と同等の効果が見られる場合もある。